

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

北九州市のもつ多彩な魅力や強みを活かして都市ブランドを向上させるため、交流人口の拡大や誘致促進により人やまちが潤う観光大都市への進化、及び市民生活を豊かに彩る文化芸術・スポーツの振興を一体的に推進する。

2 基本情報

(1) 令和8年度局全体当初予算額

一般会計142億円(うち一般財源79億円)

(2) 組織(部名) (R8.4.1付)

総務文化部、観光にぎわい部、スポーツ部、美術館、自然史・歴史博物館、科学館、松本清張記念館、文学館、漫画ミュージアム

(3) 所管の政策連携団体

(公益財団法人) 北九州市芸術文化振興財団、北九州観光コンベンション協会
(株式会社) 皿倉登山鉄道

(4) 所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	美術館、自然史・歴史博物館、科学館、漫画ミュージアム
指定管理	北九州芸術劇場、響ホール、黒崎ひびしんホール、小倉城、小倉城庭園、関門海峡ミュージアム、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場、総合体育館、北九州市民球場、北九州スタジアム
その他	西日本総合展示場本館、皿倉山ケーブルカー・スロープカー

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

○直営ミュージアムの付加価値最大化を目指して、民間活力の導入可能性について議論した。
○令和8年4月1日以降の観光施設料金改定及び市民割引制度の導入について条例改正を実施した。
○公共施設マネジメント実行計画の見直しに伴い、スポーツ施設のあり方について、各施設の現状分析と方向性の検討に着手した。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

○ユーザー目線の現場改善に取り組んだことで、ミュージアムの体験価値が向上した。
○観光消費額・宿泊客数の増加にむけ、ショート動画を活用したSNSでの情報発信や富山県と連携した「すしの都」による認知度向上、ナイトタイムエコノミーの充実等に取り組んだ。
○国際スポーツ大会の開催時、ミールクーポンの活用により市内への回遊性を高めるとともに、ミールクーポンのDX化に取り組んだ。
○スポーツ施設の新たな予約システムの導入(R8.4月)に向け、庭球場での試行実施や旧システムからの移行手続き等、指定管理者と連携を図りながら取組を行った。引き続き、新システムへのスムーズな移行と利用の定着に向けて取り組んでいく。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え

○直営ミュージアムの付加価値最大化を目指し、民間活力導入に向けた具体的な検討を進める。

課題領域 B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
文化	政策連携団体のあり方 (芸術文化振興財団の体制強化)	中長期計画(組織変革プラン)の策定

課題領域 C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
文化・観光・MICE・スポーツ	持続可能な施設のあり方	(1)利用者目線を踏まえ新たな施設分類の再定義 (2)ホール系施設への利用料金制導入等の検討 (3)ホール系施設のあり方検討 (4)民間活力導入に向けた具体的な検討 (5)JR小倉駅新幹線口のMICE施設のあり方検討(西日本総合展示場、北九州国際会議場) (6)皿倉山ケーブルカー・スロープカーにおける移送手段及び民間活力導入等の検討 (7)公共施設マネジメント実行計画の見直しに伴うスポーツ施設のあり方検討

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題B 政策連携団体のあり方（芸術文化振興財団の体制強化）【政策分野：文化】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

北九州市芸術文化振興財団は、組織体制が弱く、市の財政的関与の割合も高い。団体の自律性を高め、文化芸術事業をより持続可能なものとするためには、運営体制を強化する必要がある。

③課題の背景や現状

- ・プロパー職員が少なく、組織体制が弱い(文化芸術に関する政策連携団体のプロパー職員の割合は、政令市平均42%に対し、4%と非常に少ない)。
- ・収入の約90%が市の指定管理料等となっており、他の政令市と比べても、自主財源がやや少ない。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・組織体制の強化(人材の継続的な確保、専門人材の育成)
 - ・多様な財源の確保(興行の拡充、利用者層の拡大、寄付・協賛制度の推進)
- に取り組み、団体としての専門性・事業の持続可能性を向上させることにより、市民が魅力的な文化芸術に触れる機会の継続的な確保・充実を図り、「彩りあるまち」の実現に貢献する。

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)中長期計画の策定

外部専門家の伴走支援が受けられる文化庁事業などを活用しつつ、令和8年度中に運営体制の強化に向けた中長期計画(組織変革プラン)を策定する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・中長期計画の検討 ・文化庁事業への応募			・中長期計画の策定

課題C 持続可能な施設のあり方【政策分野：文化・観光・MICE・スポーツ】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

都市ブランド創造局の予算のうち、約85%が施設管理にかかる経費となっており、施設の老朽化により、管理費用や改修費用は、今後さらに増加することが見込まれる。

施設の老朽化が進む中、文化・観光・MICE・スポーツの各施設を分野ごとに管理するのではなく、利用者ニーズの変化に即した魅力ある施設づくりに向け、施設のポテンシャルを最大限に引き出す持続可能な施設運営や安定的な事業実施が求められている。

③課題の背景や現状

【文化施設】

- ①他の政令市と比較して、市民一人あたりの文化関連経費は同程度であるが、施設にかかる経費は約1.4倍となっている。
- ②維持管理・運営コストに対して使用料収入が少ない。
- ③文化施設17施設のうち、8施設が築30年を越え、老朽化した施設が多いため、文化関連予算の約90%が施設の維持管理及び改修費用となっている。

【観光施設】

①西日本総合展示場(本館・新館)、北九州国際会議場

JR小倉駅新幹線口に設置している西日本総合展示場(本館・新館)、北九州国際会議場が老朽化している。また、他都市において同様の施設が有している中で、本市のMICE施設のあり方を整理し、今後、どのような施設整備を行うのか方針を決定する必要がある。

(1)西日本総合展示場本館(築49年経過)

※北九州観光コンベンション協会所有

(2)西日本総合展示場新館(築28年経過)

(3)北九州国際会議場(築36年経過)

※メインホールなどの席数が少なく、MICE誘致にあたって他都市に競り負けることがある。

②皿倉山ケーブルカー・スロープカー

日本新三大夜景都市全国1位の認定などにより、令和7年度の利用者は過去最高の水準となっているが、現行の運営体制では、高齢者や障害のある方への対応が構造的に困難である。スロープカーの老朽化に加えて、ケーブルカーとスロープカーの定員差による混雑時の対応も課題となっており、さらなる魅力向上のため、輸送手段の抜本的な見直しが必要である。

【スポーツ】

- ①スポーツ関連予算の約90%が施設の維持管理及び改修費用となっている。
- ②築40年を超える施設が過半数を占めるなど、施設の老朽化が進んでいる。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

分野の垣根を越えた施設運営により、市民一人ひとりが単なる施設の利用を超えた「満足感」を実感できるようになるとともに、北九州市ならではの多彩な魅力に触れる機会が増える。また、施設を核とした交流人口の拡大によるにぎわいの創出など、市民生活の質の向上と地域活性化が連動する好循環が生まれる。

4 課題

課題C 持続可能な施設のあり方【政策分野：文化・観光・MICE・スポーツ】

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)利用者目線を踏まえ新たな施設分類の再定義

持続可能な施設運営や安定的な事業実施を行うため、利用者目線を踏まえ、施設の役割や性質による最適な配置や効率的な管理運営手法等について、局内横断的に検討を進める。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・新たな施設分類の再定義に向けた局内検討			→

(2)ホール系施設への利用料金制導入等の検討

ホール系施設の利用状況や興行誘致の実態を調査し、より指定管理者の創意工夫が発揮できるしくみや事業実施環境を検討する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・関係者へのヒアリング	・次期指定管理者選定に向けた条件整理		→

(3)ホール系施設のあり方検討

施設のあり方の検討を進め、それを踏まえた老朽化対策や大規模改修計画の策定を進める。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・今後のホール系施設のあり方の内部検討			・施設のあり方を踏まえた改修計画等の順次策定

(4)民間活力導入に向けた具体的な検討

北九州市ミュージアム民活検討会議での議論を踏まえ、直営ミュージアムの付加価値最大化を目指し、官民の役割分担の整理や課題の抽出、受け皿候補となる民間事業者へのサウンディングなど、民間活力導入に向けた具体的な検討を進める。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・官民の役割分担の整理、課題の抽出			→
・受け皿候補となる民間事業者へのサウンディング			→

4 課題

課題C 持続可能な施設のあり方【政策分野：文化、観光・MICE、スポーツ】

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(5) JR小倉駅新幹線口のMICE施設のあり方検討(西日本総合展示場、北九州国際会議場)
各施設の現状と課題を確認し、建て替えや改修について検討を行うとともに、JR小倉駅新幹線口の位置付けと、将来に向けた施設整備の方向性について、関係局と連携して方針案を検討する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・市内部協議 (JR小倉駅新幹線口のコンベンション施設の考え方) ・老朽化調査(西日本総合展示場本館) ・個別施設計画策定(北九州国際会議場) 			

(6) 皿倉山ケーブルカー・スロープカーにおける移送手段及び民間活力導入等の検討
令和7年度に行った移送手段の比較検討、民間活力導入に向けた調査の結果を踏まえ、今年度は、最適な移送手段の方向性をまとめる。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・移送手段の絞り込み 			

(7) 公共施設マネジメント実行計画の見直しに伴うスポーツ施設のあり方検討
公共施設マネジメント実行計画の見直し過程において、市内全域に点在するスポーツ施設のあり方について利用者目線を踏まえ検討を進める。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設マネジメント実行計画の見直しにあわせた施設のあり方検討 			